

令和元年度 彦根市まち・ひと・しごと創生本部 第1回会議

日 時：令和元年(2019年)7月23日(火)

場 所：彦根駅西口仮庁舎 4-D会議室

○地域経営・地方創生推進室長

ただいまから、令和元年度彦根市まち・ひと・しごと創生本部第1回会議を開催いたします。

それでは、推進本部設置規程第4条規定に基づきまして、本部長でございます市長に議事進行をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○本部長(市長)

早速でございますが、議題に入っていきたいと思います。

議題(1)彦根市まち・ひと・しごと創生本部設置規程について、および令和元年度のスケジュールにつきまして一括して審議をすることとします。

事務局から説明をお願いします。

○事務局

議題(1)設置規程につきまして資料1-1のとおりでございます。例年どおり、人事異動に伴いまいまして、役職等は変わった部分を改正させていただいております。さらに、今年度は第2期総合戦略の策定がございますが、資料1-2のとおり策定推進体制についても、今までの第1期総合戦略と変わってはならず、部会と総合戦略推進協議会の間に創生本部が入ってくるというような形になってございます。

続きまして、議題(2)についてご説明をさせていただきたいと思います。資料の2およびその裏面にございます資料3についてご説明させていただきます。

第2期総合戦略の策定スキームは資料2のとおりとなっておりまして、まず、骨格となる基本方針を作成しまして、その後、その基本方針に肉づけを行う形で第2期総合戦略を策定してまいります。

資料の3をご覧ください。こちらは具体的な策定スケジュールとなっております、創生本部の今後のスケジュールに関しましては、本日7月23日に第1回の本部会議を開催させていただきまして、8月下旬に各部会から集まってきた基本方針の素案について審議いただく場として、第2回の本部会議をさせていただきたいと思います。第3回につき

ましては、11月上旬を予定しております、この会議において第2期総合戦略の素案について、本部において審議をしていただきたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、議題(1)(2)に関してご説明を終えさせていただきます。

○本部長

議題(1)(2)について、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

特段ないようでしたら、続きまして議題の(3)でございます。平成30年度のKPIに係る内部評価についてご審議をお願いします。

各部会での協議結果につきまして、基本目標の順番に各部会長のほうからご報告をお願いします。

○雇用創出部会長

雇用創出部会から、7月2日に開催いたしました部会で内部評価をいただきましたので、その結果を報告させていただきます。

まず施策(1)企業立地や産業集積の促進等による地元での就職環境の整備でございます。1つ目、有効求人倍率(彦根管内)でございますが、目標値1.36に対しまして結果は1.78で、評価は○でございました。課題といたしましては、彦根管内のフルタイム雇用の求人の多くは生産工程の職種でございましてパート求人ではサービス業が多い現状が継続し、慢性的な人手不足であること、それから、本市地域では製造業が多く、労働力の安定した確保が必要となることでございます。次に、課題解決に向け今後実施すべき取組でございますが、以後、今後の取組と略させていただきたいと思っております。これにつきましては、彦根地域雇用対策協議会におきまして、問題解決に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

次に、KPI名、工業製品等出荷額でございますが、目標値5.855億円に対しまして結果は6,707億円で評価は○でございました。課題といたしましては、景気が緩やかに回復する中、目標を達成できましたが、今後も新規企業の進出や既存企業の設備投資等が期待されることから、引き続き立地施策による経済活性化の後押しが必要でございます。今後の取組としましては、制度の周知や施策の推進により、企業の設備投資の促進や企業誘致を図りたいと考えているところでございます。

次にKPI名、工場等設置奨励措置件数(累計)でございますが、目標値65件に対しまして結果は83件で、評価は○でございました。課題としましては、平成29年度に改正を行いました彦根市企業立地促進条例の周知とともに引き続きの助成措置が必要ということ

でございます。今後の取組としましては、制度の周知に努め、企業の設備投資の促進や企業誘致を図る上で各市の誘致施策を推進していきたいと考えているところでございます。

次に施策名(2)起業や新分野への進出に対する支援に対する新たな雇用の創出でございますが、まずK P I名、起業者数(累計)でございますが、目標値 76 人に対しまして結果は 74 人で、評価は×でございました。課題としましては、起業につながるよう広く必要な周知や働きかけが必要でございます。今後の取組としましては、起業に必要な情報の提供を商工会議所など関係機関と連携して行いたいと考えているところでございます。

次に施策名(3)地場産業の人材確保・育成および競争力強化でございます。まず、K P I名、彦根仏壇産地生産額でございますが、目標値 29 億 4,900 万円に対しまして結果は 21 億円で評価は×でございました。課題としましては、大型金仏壇の需要が低迷していることでございます。今後の取組としましては彦根仏壇活性化のための人材育成や新商品の開発に加え、海外販路の開拓等も支援を要すると考えているところでございます。

次のK P I名、彦根バルブ産地生産額につきましては、目標値 231 億 7,700 万円に対しまして結果は 253 億 7,700 万円で評価は○でございました。課題としましては、前年度の生産額と比較すると、水道用弁、産業用弁、船用弁などおよび鋳物素材の全てでわずかながら増加しておりますけれども、さらなる彦根バルブのブランド力の強化と周知が必要となるところでございます。今後の取組としましては、彦根バルブ産業活性化のため引き続きPRに努めるとともに、内需拡大、海外販路拡大の支援を要すると考えているところでございます。

次のK P I名、彦根ファンデーション産地生産額につきましては、目標値 29 億 4,900 万円に対しまして結果は 29 億円で評価は×でございました。課題としましては、加工賃はやや上昇傾向でございますが受注量は横ばいとなっていること。それから為替変動の影響によって原材料の仕入れ価格および利益率が不安定であること、そして従業員の高齢化と若手従業員の確保が困難なことでございます。今後の取組といたしましては、他の地場産業同様、人材育成、新商品開発、海外販路の開拓等の支援が必要と考えているところでございます。

施策名(4)6次産業化や農商工連携の推進による農林水産業の競争力強化でございます。まずはK P I名、認定新規就農者数(累計)でございますが、目標値 8 人に対しまして結果は 5 人で評価は×でございました。課題としましては市が認定する新規就農者がなかったことでございます。今後の取組としましては、特徴ある農業者の事例を若者等にPRいた

しまして新規就農のきっかけとしたいと考えております。

次のK P I名、6次産業化に取り組む事業者数、同じく累計でございますが、目標値6人に対しまして結果は3人で評価は×でございました。課題としましては6次産業化に関する総合化事業計画の承認を国から得た事業者がなかったこととございまして、今後の取組としましては、特産品の創出を図り、園芸栽培や6次産業化の取組を底上げしていきたいと考えているところでございます。

次に施策名(5)人材不足の職場における人材の確保・定着への支援でございます。まず、K P I名、福祉の職場説明会参加者のうち就職に結びついた人数でございますが、目標値15人に対しまして結果は5人で評価は×でございました。課題としましては、有効求人倍率が高水準で推移していることもあり、職場説明会への参加者の減少と相まって、就職者数も減少したことにあります。今後の課題としましては、職場説明会参加者をふやすためにはSNSの活用など周知方法を見直すとともに、福祉関連の仕事に興味を抱かせるような開催内容となるよう検討していきたいと考えているところでございます。

次のK P I名、ひとり親家庭が就職に有利な資格等を取得する際に係る費用助成対象者数、累計でございますが、目標値22人に対しまして結果は14人で評価は×でございました。課題としては、体調不良等により休学され単位取得に至らなかった方や資格を生かした就職に結びつかなかった方などがあり、一人でも多くの方に資格取得していただき就職に結びつけていく必要がございます。今後の取組としましては、受講中から資格取得後の求職活動に至るまでの間のフォローが必要です。特に求職活動では積極的な就労支援を行うことで、就職後のアフターフォローも可能であると考えているところでございます。

次に、施策名(6)観光・文化・スポーツの振興による地域活性化策の強化でございます。K P I名、観光入込客数でございます。目標値361万1,000人に対しまして結果は307万3,300人で評価は×でございました。課題としましては、国宝・彦根城築城410年祭および大河ドラマの終了や、台風や豪雨などの天候不順の影響もありまして、入込客数が前年より減少したことでございます。そして大型イベントを生かしつつも持続的に誘客や周遊につなげる取組が必要となるところでございます。今後の取組としましては、来年放映の大河ドラマ「麒麟がくる」を契機とした全県的な戦国キャンペーンに連動した効果的な誘客を図るとともに、近隣市町等の広域連携事業を含めた周遊促進の取組を実施し、一人当たりの訪問地点数の増加を図っていきたいと考えているところでございます。

次にK P I名、観光消費額でございます。目標値190億円に対しまして結果は158億円

で評価は×でございました。課題としましては、観光入込客数と同様に前年よりも減少したこと、大型イベントを生かしつつも持続的に誘客や観光消費につながる取組が必要というところでございます。今後の取組としましては、周遊促進の取組を実施し、滞在時間の延伸を図るとともに、観光消費につながる飲食、土産、体験メニューなどの消費につながる観光コンテンツの開発やPRに引き続き取り組む考えでございます。

次に、KPI名、市内宿泊者数でございます。目標値 36 万 6,551 人に対しまして結果は 45 万 6,800 人で評価は○でございました。課題としましては、新たな宿泊施設のオープンなどの影響で前年より宿泊者数は増加しましたが、閑散期、繁忙期を含め全体的な底上げが必要でございます。今後の取組としましては、滋賀県の戦国キャンペーンと連動した取組を含め、引き続きライトアップ事業など宿泊につながる取組の実施およびそのPRに努めていく考えでございます。

次に、KPI名、外国人観光客数および次のKPI名でございます、外国人観光客市内宿泊者数でございますが、まず、外国人観光客数は目標値 10 万人に対しまして結果は 8 万 5,328 人で次の外国人観光客市内宿泊者数は目標値 5 万 5,000 人に対しまして結果は 2 万 8,012 人でいずれも評価は×でございました。課題としましては、いずれも前年より増加したものの一時期の都市圏からの宿泊客の流入がおさまりに、評価は×となった。外国人の誘客は市単独よりも広域での誘客は必要ということでございます。今後の取組としましては、いずれも県(びわこビジターズビューロー)や近隣市で構成するびわ湖・近江路観光圏活性化協議会、近江ツーリズムボードなどと引き続き連携を密にし、外国人観光客への積極的な情報発信や受け入れ環境の整備に取り組む考えでございます。

次のKPI名、歴史的風致維持向上施設の整備件数でございますが、目標値 18 件に対しまして結果は 22 件で、評価は○でございました。課題としましては、歴史的風致の維持向上には継続的な取組を効果的に実施することが必要でございます。今後の取組としましては、彦根市歴史的風致維持向上計画(第2期)に基づく歴史まちづくりを推進するための各種事業の取組を推進していく考えでございます。

次に最後のKPI名、本市スポーツイベントへの参加人数でございますが、目標値 2 万 7,800 人に対しまして結果は 2 万 7,374 人で評価は×でございました。課題といたしましては、(仮称)彦根総合運動公園、同じく(仮称)新市民体育センター等の整備期間中、新会場で円滑にスポーツイベントを開催していくことが必要となります。今後の取組といたしましては、平成 30 年度の新会場でのスポーツイベント開催結果を踏まえ、アンケートや

実行委員会等での意見を聞きながら、より安全で円滑な運営ができるよう改善に努めていく考えてございます。

以上が雇用創出部会での平成 30 年度 K P I に係る内部評価の説明といたします。よろしくお願いたします。

○本部長

ありがとうございます。何か、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

○副本部長(副市長)

評価が×となっているものが多いのですが、K P I の目標値の設定について、どうい設定しているのでしょうか、見込みも含めて検討しているのでしょうか。先日の総合戦略推進協議会では、外部委員から K P I の実績値が目標値に届いていないということで厳しい指摘があり、評価が保留になったということもありますので、その点について説明をお願いします。

○雇用創出部会長

目標値にさせていただいています部分というのが、それぞれ所管いたします基本的な計画もでございますので、そういったところから導き出しているものなどがございます。また、過去の累計の部分での推移を見ながら設定をさせていただいているものもございす。ご指摘のとおり、非常に×の物が多いというところは課題でございますので、それにつきましてはそれぞれ計画等の整合性も含めて検討していく必要があると思っています。

特に農業施策につきましては非常に地道な取組が必要な部分もございすので、こういった結果になっています。観光につきましても何とか目標達成したいという数値にさせていただいております、若干、届かない部分があるというような状況でございます。

○副本部長

例えば観光入込客数について、個別のイベントがどのように、どの程度、K P I の実績値に寄与しているのか、そういった説明ができるようにする必要があります。そうでないと K P I の数値の意味が分からないと思います。

どういった流れで K P I 実績値が出ているのかという点が説明できないといけない。ただ、数値だけを見せて、到達できなかったということだけだと外部評価委員も評価ができないし、今後どうするのかわ見えてこない。何のためにこれをやっているか目的がわからなくなってしまうので、この点、皆さん、ご意見があったらお伺いしたいです。

○本部長

いかがでしょうか。

要は、第2期総合戦略にも影響してくるのですが、目標設定の仕方とその説明とがしっかりとできないといけない。例えば、他の分野もそうなんですけど、総合戦略の取組と該当するKPIとの因果関係を説明できないといけないと思います。つまり、取組を行ったことでどういう直接的な効果があり、その効果がKPIにどのように影響したかということが説明できないと、評価ができないということだと思います。他の施策もそうだと思うので、目標設定をしたり、KPIをつくったり、それを実証したりというような大変な作業なので、第2期総合戦略の検討に当たっては、まずそれをどういうふうに説明するかも含めてよく検討していただかないといけないと思います。

○副本部長

要は、KPIについて、外部評価を行う前に、しっかりと施策とKPI実績値の因果関係を説明できるように、部会等で検討が必要であると思います。また、第2期総合戦略の検討に当たっても、その点は十分な検討が必要です。意見として言っておきます。

○本部長

他にいかがでしょうか。どうぞ。

○危機管理監

市内宿泊者数は目標値を大幅に上回っています。過去の私が観光の担当課にいたころは宿泊者数30万人ぐらいだったと思いますので、宿泊者について大幅に増えており、かなりいい状況だと思います。目標には達していませんが外国人観光客数も増えています。宿泊者が増えているのに観光消費が余りよくないような評価になっているので、もう少しいい面の部分が強調されてもいいのかなと思います。宿泊者数がふえたら必然的に消費額が増えているはずなんですし、宿泊者は、日帰りの人に比べて、消費額が3倍であるという統計があります。調査の仕方にもよりますが、そうした伸びている部分はもっと評価しても良いのかなと思います。

○副本部長

通常、一般論として、目標が達成できなければ事業を見直すということになると思います。それを継続していくということであれば、目標は達成できていないが、具体的にはこういった効果があったということを説明する必要があります。目標値についても、達成の見込みがないようであれば、目標値を見直すことも必要でしょう。

○危機管理監

目標値は変えてはいけないというルールだったと思います。

○事務局

おっしゃるとおりでして、K P I の目標値に関しては今まで変えないという形で第 1 期総合戦略は行っていましたが、第 2 期総合戦略では一定のルールを整備させていただいて、どういう形であったら変えるのかというのをしっかり議論できるようにしていきたいと思っておりますので、その辺、副本部長がおっしゃったとおり、どういう形ですかというか検討させていただきたいと思います。

○地域経営・地方創生推進室長

総合戦略に載ってる K P I のほとんどは、個別の計画でも使われている指標になっていますので、そうした個別の計画とも整合を図る必要があります、K P I 目標値については変更しないとしてきたというのが実態です。

○本部長

いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、基本目標 2 についてお願いします。

○結婚・妊娠・出産・子育て部会長

それでは基本目標 2 の次代を担う子どもたちを安心して産み、育てることができるまちづくりについて説明させていただきます。

まず、施策の 1 つ目、結婚から子育てまでの切れ目のない支援についてです。この施策には 5 つの K P I 指標がございます。1 つ目の年間出生数は K P I 値結果 947 人で目標値は達成することはできませんでした。また、次のページにもなりますが年少人口割合につきましても K P I 値結果は 13.8% で目標値を達成することはできませんでした。これら 2 つの指標につきましては、一朝一夕に実績が上がるものではなく、結婚、妊娠、出産、子育ての各ステージにおける支援策を根気よく進めていく必要があります、今後も移住、定住推進施策、婚活支援などによる生産年齢人口の増加を図る取組を強化するとともに、不妊治療への支援、子どもの医療費助成など、安心して出産、子育てができる環境の整備を図ってまいります。

2 ページの 2 段目、3 つ目の保育所待機児童数につきましては、保育所などが開設されるなど保育の受け皿が拡大しましたことにより 29 人となり、K P I 値、目標値を達成することはできましたが、高まる保育のニーズに対応するためにはさらなる取組が必要です。不足しています保育士の確保について今後も取組を図ってまいります。

4 つ目の(仮称)彦根市子ども・若者支援センターの設置につきましては、平成 28 年度

に彦根市子ども・若者総合相談センターを開設し目標値は達成しておりますが、社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者を支援するためにはセンターのさらなる充実や、工夫した取組が必要であり、今後も機能強化を進めるとともに、子ども・若者支援地域協議会におけるネットワークの構築を図ってまいりたいと考えております。

最後、地域での学習支援教室の整備につきましては、学習教室や地域での居場所などが10カ所開設されておりましたが、目標値を達成しておりますが、継続的に学習支援を担える人材の育成や運営支援が必要ですので、今後も子ども・若者の健やかな育ちを運営する人づくり、地域づくりを進めるとともに、活動を支援する方策を検討してまいりたいと考えております。

3ページをお願いいたします。

2つ目の施策、小・中学校教育の充実についてです。この施策には2つのKPI指標がございます。まず1つ目の、市内児童・生徒の基礎・基本的な学習内容の取得状況につきましては、平成30年に実施されました全国学力学習状況調査をもとにKPI結果をお示ししているもので、小学校は66.5%、中学校は70%とともに目標値を達成することはできませんでした。小学校、中学校とも学習内容の定着を図るための授業改善、家庭学習の充実が必要であり、今後は第Ⅱ期彦根市学力向上推進プランに則って、確かな学力の育成を図ってまいります。

次の市内児童・生徒学校満足度につきましては、学校満足度調査によるものでKPI値結果は89.8%で目標値を達成することはできませんでした。わかりやすい授業の構築や、一人一人の子どもにとって居場所のある学校づくりが必要です。主体的に学び、わかることが実感できる授業づくり、互いに認め合える集団づくりの推進を今後も図ってまいります。

次に3つ目の施策、ふるさとを誇りに思い、将来地域社会に貢献する子どもの育成についてです。この施策のKPI指標は1つで、地域行事に参加している児童・生徒の割合としており、小学校は73.5%、中学校は63.9%でした。中学校についてのみ目標値を達成することができましたが、それぞれの学区によって学校と地域との連携に格差がありますので、今後も学校と地域のネットワーク構築に努め、地域との連携充実を図り、地域行事への子どもたちの積極的な参加を促してまいります。

最後の施策、4つ目です。仕事と生活の調和の推進です。この施策のKPI指標は1つで、ワーク・ライフ・バランス取組企業数です。滋賀県ワーク・ライフ・バランス推進企

業に登録されています市内の企業数をK P I 値結果としており、56 件で目標値を達成することができませんでした。ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、市内の事業所への啓発が必要であるため、今後は経営者などに対し意識改革のために研修会などを実施してまいります。また、県の登録制度につきまして、市としての周知方法を検討するとともに、ハローワーク彦根などと連携し、登録制度の普及強化に努めてまいります。以上です。よろしく願いいたします。

○本部長

何かご質問、ご意見、ございますでしょうか。

○市立病院事務局長

部会のおきも言っていたんですけど、「子ども・若者支援センターの設置」という目標がありますが、目標を設置だけにしてしまうと完成したら達成で終わりということになるので、第2期総合戦略では再検討された方が良くと思います。もし同じ分野で目標を設定される場合は、同センターにおける相談件数とか、運用状況に関する指標を設定されればどうかと思います。

○本部長

他にご意見はありませんか。それでは、次に基本目標3について、よろしく願いします。

○若者定着・移住部会長

若者のチャレンジにより、新しい人の流れが生まれるまちづくりにつきましてご説明をさせていただきます。

この基本目標につきましては、施策が3つございます。

まず、1つ目の施策でございますが、市内大学をはじめとした高等教育機関等との連携強化でございます。こちらにつきましてはK P I 指標も2つございます。一つは市内3大学新卒者の県内就職率と、それから市内の就職率でございます。それぞれ毎年度の卒業生の数値をとっておりまして総合戦略最終年度である平成31年度までは、元年度でございますが、それぞれ25.5、6.0%となっております。

まず、県内就職率のほうでございますけれども、平成30年度の目標数値25.0%に対しまして実績は21.2%でございます。評価は×となっております。課題といたしましては、学生が県内企業を余り知らないということが就職に結びつかなかったことがあります。環びわ湖大学・地域コンソーシアムが実施しましたアンケートでは、3分の1程度の学生

が県内での就職を希望しているにもかかわらず、県内企業のことを知らないという結果が出ています。また、もう一つのK P I 数値、3 大学新卒者の市内での就職率につきましては、平成 30 年度の目標数値 5.5% に対し実績が 2.9% でございましたので、こちらも評価としては×となっているところでございます。課題といたしましては、県内企業同様に学生が市内の企業のことを余り知らないということが挙げられるところでございます。このような状況を受けまして、今後実施すべき取組といたしましては、県内就職率および市内就職率をあげるためには、滋賀県や湖東圏域の 4 町とも連携をいたしまして、企業紹介冊子を活用しながら企業の周知を図ってまいるとともに、市内企業の合同企業面接会など就職説明会などを多く実施することにより周知してまいりたいと考えているところでございます。また、都市圏に比した物価の安さや通勤時間の短さ、恵まれた自然環境、アウトドアなどの趣味も楽しめるワーク・ライフ・バランスを実践できる場所など、彦根の暮らしの魅力を都市部との比較を交え、学生に P R していくことが必要であると考えているところでございまして、これらのことを関係機関等連携しながら検討してまいりたいと考えているところでございます。

次に(2)の 2 つ目の施策でございますが、起業や新分野への進出に対する支援による新たな雇用の創出(再掲)となっているものでございますけれども、こちらにつきましては先ほど雇用創出部会から説明をしていただいておりますので、ここでは省略をさせていただきます。

続きまして、2 分の 2 ページのほうでございますが、3 つ目の施策でございます。移住策の推進でございます。K P I 指標は毎年 12 月 31 日時点での社会増減数と当該年度中における移住施策による市外からの移住者数でございます。平成 31 年度、令和元年度に社会増減数は 100 人増、移住者数は 52 人を目指しているところでございます。

1 つ目の移住策にかかる K P I 指標社会増減数でございますが、30 年度の目標値 100 人の増加に対しまして実績は 564 人の増加でございましたので評価は○となっております。内容についてでございますけれども、平成 30 年度の転出者数は 5,501 人に対しまして転入者は 6,065 人ということで 564 人の増加となっております。目標は達成をしておるところでございますけれども、ゼロ歳から 15 歳未満の年少人口につきましては減少をしておりまして、これにつきましては課題と考えておるところでございまして、課題解決に向けまして、今後お試し移住のニーズに対応する移住体験ツアーの実施とか、新たな移住ポータルサイトを開設する中で、子育て世帯を意識した情報発信に力を入れる、

シティプロモーションによる市の魅力発信、移住者への情報発信を強化してまいりたいと考えております。

それから2つ目の、移住施策にかかるKPI指標でございまして、移住施策による市外からの移住者数でございますが、平成30年度の目標数値52人に対しまして実績は91人で評価は○となっております。課題というのか、以上から見えてきたこととございましてけれども、移住施策を活用した移住者は結果としまして目標は達成しているところでございましてけれども、全ての移住者にとってこの移住施策が移住の決め手ではなかったということもわかってきてございまして、費用対効果を考えますと、今後は補助事業に頼らない移住施策が必要と考えてございまして、先ほども申し上げました新たな移住ポータルサイトの開設や体験型の移住ツアーの企画、移住フェアやここ滋賀などから市の魅力発信をもっと行ってみまして、この彦根の魅力を最大限伝えられるよう、情報発信の強化を考えているところでございます。

○本部長

ありがとうございました。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○危機管理監

最後の移住施策の部分で、町屋バンク、空き家バンクとの連携や、「ひこねで暮らそう」リフォーム事業との連携についても必要かと思えます。

○若者定着・移住部会長

今後の実施すべき取組のところに記載し、取組を進めていきます。

○市立病院事務局長

社会増減数についてですが、去年調べたら外国人、特にベトナムの方が非常に増えているというのが実態でしたが、この辺は何か実数を把握していますか。

○事務局

直近でベトナム人が一番多くなっております。

○本部長

いかがでしょうか。よろしいですか。

特にないようでございますので、次は基本目標4について報告をお願いします。

○安全なまち部会長

安全なまち部会につきまして報告をさせていただきます。

資料4です。当部会におけます基本目標は、時代に合った地域の中で、安心な暮らしを

守るまちづくりでございまして、数値目標と指標は人口でございまして。平成 30 年度の評価、課題でまず、この基本目標の指標である人口でございましてけれども、平成 30 年度の K P I 指標値、11 万 2,624 人に対しまして 11 万 3,073 人、449 人の増となっている評価をもらっています。課題につきましては外国人の増加等により総人口と生産年齢人口は微増としておりますけれども、年少人口は減少が続いておりますことからこれが課題と考えております。実施すべき取組としましては、子育て世帯に対する移住および定住促進策の強化を検討していくことと考えています。

次に、施策名、彦根らしい多極的なコンパクトシティの形成でございまして。まず、立地適正化計画の策定につきましては、平成 29 年度に策定いたしましてこの計画に基づきまして施策を実施しましたことから評価を○としております。課題につきましては、コンパクトシティの実現に向け、関連するさまざまな施策のさらに積極的な推進が必要であると考えておまして、実施すべき取組としましては限られた財源ということございまして、施策を推進するためには国の交付金でありますとか、民間資金の活用を検討し、進めていく必要があると考えております。

次に、地域公共交通網形成計画の策定でございまして。地域公共交通網形成計画は平成 28 年度に計画を策定しましたが、バスの運転手の不足によりまして、この運行計画の見直しが必要となり、平成 30 年度に全体的な見直しを行いまして、平成 31 年 4 月から新たな計画ができましたので評価は○としております。今後の利用促進を図るために課題としまして、再編後の路線や新たな割引制度の周知を行っていきたく思っております。また、実施すべき取組としましては、新たな利用者の掘り起こしによる利用促進を図っていきたく思っております。

次に、施策名が空き家等住まい対策の推進でございまして、まず、空き家等対策計画の策定でございまして、これにつきましても平成 29 年度に策定しました計画に基づきまして、今は空き家バンクなど関係施策を実施しましたことから評価は○としております。課題は計画に基づき具体的な施策を進める必要があると考えておまして、実施すべき取組としましては特に空き家バンクの運営、またそれのほか登録者が利用できる融資制度の周知など、財源を確保しながら施策を進めてまいりたいと考えております。

次に、「住もうよ！ひこね」リフォーム事業助成金の移住・新婚・子育て・三世同居要件での助成件数でございまして、これは目標値 149 件に対しまして実績が 243 件であり評価は○です。課題は当制度による市内産業の活性化や定住人口の増加を図るため、制度

設計の見直し、再構築が必要であるというふうと考えておりました、実施すべき取組としましては、定住人口の増加につながる制度となりますよう、関係部局と調整を図りながら、制度設計をしていきたいというふうと考えております。

次に、施策名の3番目、公共施設マネジメントの確立による持続可能な施設整備・運営管理でございまして、まず施設類型毎の個別計画の策定割合でございしますが、目標値58.3%に対しまして実績が47.2%で評価は×です。課題としましては公共建築物の建て替え工事の延期等によりまして計画作成時期がおくれるということで、実施すべき取組としましては施設の老朽度合いや利用状況、運営方法などさまざまな分析により今後のあり方を検証し、できる限り早期に計画策定に努めてまいるように考えております。

次に、公共建築物の総延床面積の削減率でございしますが、目標値0.56%に対しまして実績は1.07%で評価は○です。課題は、施設の廃止には利用者の理解を得るためにも、アカウントビリティの向上が求められているということで、実施すべき取組としましては、施設の老朽化度合いや利用状況など、各種分析と今後のあり方を検証の上、パブリックコメントなどを通じて計画を取りまとめ、総量の適正化を図ってまいりたいと考えております。

次に、施策名が安全・安心な暮らしの確保でございまして、まず、自主防災組織率でございしますが、目標値76.9%に対しまして実績が74.2%で評価は×となっております。課題は防災意識は徐々に高まってきておりますけれども、自主防災組織に対する理解が低いことや、一部では高齢化などによりまして、防災組織の設置が進まないということでございます。実施すべき取組としましては、自主防災組織未設置の自治会に対しまして周知啓発や組織について結成に必要な規約作成などの支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、彦根市内犯罪率でございしますが、人口1万人当たりの刑法犯認知件数としておりまして、目標値108件に対し実績が67件となっております、評価は○でございまして、課題は今後も犯罪を抑止するため、警察等関係機関と連携しまして、地域の安全活動を推進することで、実施すべき取組としましては引き続き防犯灯や防犯カメラの設置など地域のさまざまな防犯活動を支援していきたいと考えております。

最後になりますけれども、湖東定住自立圏形成協定に基づく取組の推進でございまして、指標は湖東圏域1市4町の人口で、目標値15万4,712人に対しまして実績が15万6,346人で評価は○です。課題は広域で生活機能等を確保することで、人口流出を抑制していかなくてはならないということで、実施すべき取組としましては、湖東定住自立圏共生ビジ

ョンに係る第2期計画が今年度までとなっておりますことから、これまでの取組結果を踏まえた次期計画を策定することで、引き続き圏域での連携を高めながら、地域連携による経済・生活圏の形成を図り、圏域全体の活性化を図ってまいりたいと考えております。

○本部長

ありがとうございました。何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

いかがでしょう。どうぞ。

○市立病院事務局長

最後の定住の人口なんですけれども、彦根市は400人ほどしか増えていないんですが、定住自立圏では1,600人ぐらい増となっています。これはほとんど愛荘町ですか。

○事務局

お見込みのとおりです。

○市長直轄組織参事

KPIについては第1期総合戦略では変えないということですか。

○事務局

第1期総合戦略に関しては変更する予定はありません。第2期総合戦略に関しては、変更する場合等のルールづくりを進めていきたいと考えております。

○市長直轄組織参事

基本目標4でいうと、空き家対策の計画の策定については、策定の次に、この空き家はどうするかという話になってくると思いますので、表現を変える必要があると思います。

○事務局

第2期総合戦略では、その辺りを踏まえ変更していく予定です。

○市長

ほかにいかがでしょうか。

○企画振興部参事

指標について、累計というような指標があって、単年度の目標ではないので、この資料を見てただけでは見えにくいなというのが一つ思うんです。推移、前年度と比べて平成30年度が伸びたのか下がってるのかということも、ぱっと見てわかるほうがいいかなというふうに思いました。また、評価が達成できたかできなかったという評価が○と×だけなのですが、見ているとほぼ達成しているものもあります。視覚的に見たときに、別に△、ほぼ達成というような評価もあったほうが良いのではないのでしょうか。先ほど副本部長か

らも×が多いというお話もありましたけれども、ほぼ達成と全然未達成は意味が違うので、そういう見せ方もいいのかなというふうには思いました。以上です。

○本部長

ありがとうございました。そのほか。どうぞ。

○市長直轄組織参事

関係所属の見直しについては可能なのでしょうか。

○事務局

関係所属の変更に関しましては、各部会から変更の報告をしていただき、変更しておりますので、部会から変更の報告をしていただければと思います。

○副本部長

これをもとに、外部評価をしていただくということで間違いありませんか。

○事務局

その通りです。

○副本部長

この中で注意してほしいのは、特に評価が×のものについてです。成果についてしっかりと説明しないと、外部評価していただく委員に対しても失礼な話になります。その点を踏まえて、継続する場合は、今後の取組の部分で継続する必要性を説明し、整理をして望んでほしいと思います。昨年度から外部委員の質問に対して答えられない場面も結構ありますので、しっかりと説明できるような形で、今後の方針も踏まえて言えるように準備のほどよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○本部長

いかがでしょうか。どうぞ。

○危機管理監

安全なまち部会のおときには、推移のグラフがあつて分かりやすかったのですが、協議会でも資料提供してはどうでしょうか。

○事務局

準備させていただきます。

○本部長

ほか、何かございますでしょうか。

第2期総合戦略に向けては、取組やK P Iについても整理し、重要度も踏まえて全体と

して整理していただければと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは本日はこれにて、終了させていただきます。

ありがとうございました。

(終了)